



洗足学園中学校 中学3年 学年通信 2020.6.5 発行 第2号（通算27号）

4月、5月は残念ながら登校が叶わず、オンラインでの授業実施となりました。いろいろと不自由な状況はありましたが、それでも生徒は前向きに学ぶ姿勢を見せてくれ嬉しく思いました。授業の取り組みの一部をご紹介します。

🌸インターネット句会（国語の授業より）

中3の国語のシラバスに「近代の俳句」があります。正岡子規に始まる近代俳句の特徴と鑑賞の方法について知ることと、実際に作品を作ってみることで俳句という文学形式を体得するのが課題になっています。今回は自宅学習となり様々な制約がある中で、逆にこの機会でないといけないことに挑戦するということになりました。それがインターネット句会です。

まず生徒に特定の季語から作品を作ることと求め、それを匿名にして学年の国語科教員が優秀作を36句選びました。ビデオ授業でこの中の作品を簡単に紹介した後、生徒にフォームを使って選句してもらいました。集計があっという間にできるデジタルシステムの利点を感じたのはこの時です。瞬時に人気作品が判明しました。ただし、生徒のみなさんには、結果はまだ発表していません。誰の作品なのかも分かっていません。生徒も知らない優秀作品の結果をここで発表致します。



第1位 28票

チューリップ植える子供の手は茶色 D組 Y.S.

この作品は球根を植える時であるならば秋の景ですが、ここは移植でもしている風景として春の作品として扱いました。花ではなく子どもの手に注目しているところに俳句的な現実味を感じます。

第2位 21 票

花咲けり人あらずともうつろはず A 組 M.K.

流麗な古語で作られており、句の型をうまく利用できています。花見が自粛されたなかでも桜花はしっかりと咲くという生命の営みをみごとに描いています。

第3位 12 票

一人行く背中をなでる夜桜や A 組 H.S.

夜桜をゆっくりと鑑賞するのではなく一人で通り過ぎる人の背中をなでるように散る桜を描きました。なぜ一人なのかということへの推測や「なでる」という触感の表現などに共感が集まりました。

第4位 11 票

夜桜の舞い散る夜は静かなり B 組 S.S.

マスクして桜の前を急ぎ足 C 組 Y.Y.

第6位 10 票

懐かしや桜の見守るランドセル A 組 A.Y.

第7位 9 票

風を切り己を信ず仔馬かな A 組 S.Y.

桜舞う遠くの空に君の声 B 組 N.Y.

猫の子やあたたかくてもまだ眠る C 組 M.M.

さくらもち食べず嫌いも今年まで B 組 Y.I.

このほかにもよい作品がありました。今回は外出自粛の心情を景に託した作品が多くみられました。俳句は奥の深い文学なので、ぜひこれからもたくさんの作品を作り続けてください。ご家族のみなさんも作品を作られてみてはいかがでしょうか。

投票率とふるさと納税（公民の授業より）

公民の授業では、4・5月に日本の政治機構に関して学習しました。その中で、生徒たちに意見を求めたものがありますので、いくつかご紹介します。中高生の多くは、政治や経済というと、自分たちの生活とだいぶ離れているように感じているようですが、実は身近なものだったり、近い将来関わることになるものが多いです。公民の授業を通して、現代社会について考える機会を今後も提供していきたいと思っています。

①若年層の投票率向上のためのアイデア

選挙制度の課題の1つとして、投票率の低下問題を取り上げました。生徒たちは3年後の18歳から選挙権を得ます。自分事として、政治に関心を持ち選挙に投票に行くためにはどのような取り組みが必要か、当事者としてアイデアを募りました。

- ・学校（中学校・高校）などで、実際の選挙に似た模擬選挙を行ったり、各政党の政策の具体的な違いなどを学ぶ授業を行う。
- ・政治の面白さを若者に知ってもらうため、政治家を教育現場に招いたり、アクティブラーニングによって生徒同士で話し合うことが大切だと思います。
- ・家庭で政治についてよく話すように学校から保護者宛にメールする。
- ・テレビなどのメディアを使って、多くの人が見ている21時頃の時間帯に、政治のことについて、池上彰さんや、塾の先生などプロの方にわかりやすく、かつ面白く解説してもらう番組をつくる。
- ・若者に人気のアイドルや芸能人などがツイッターなどのSNSで選挙に行ったことを言ったり呼びかけたりする。
- ・インターネットでも投票できるようにする。自分たちがよく使うアプリ・ツールから気軽に投票できるようにする。
- ・マイナンバーを利用し、セキュリティをしっかりとさせた上でインターネットによる投票を始める。
- ・大学構内や駅構内、コンビニの外など頻繁に通る場所に投票所を設ける。
- ・「該当者なし」の票を作る。
- ・投票に行ったらポイントが貯まって、ポイントを何かと交換出来る仕組みをつくる。



②ふるさと納税制度の拡大に賛成か反対か（地方自治の課題）

ふるさと納税制度がブームになっております。保護者の皆様の中でも利用されている方もいらっしゃるようです。ふるさと納税制度の利点（地方の財政収入の増加など）と欠点（都市部での税収減少など）を紹介した上で、ふるさと納税制度を拡大すべきとの考えも広がっています。それに対しての賛否を問うてみました。

全体の結果 賛成：48.2% 反対：51.8%

〔賛成派〕

- 地方公共団体によって財政格差があるのは良くないと思うから。地方にもお金が入れば、都市部みたいに開発できたりして、その分また観光業なども発達して国のお金も増えると思うから。都市部に入る税金が減るのは、ふるさと納税の返礼品などのせいもあるが、払いたいと思えるような地方自治ができていないからで、地方自治にも良い影響を与えられるかもしれないから。(D組 N.K.)
- 先日テレビで、前橋市が、現在紛争が起こっている南スーダンの陸上選手をオリンピックに向けて受け入れているということが報道されていた。ホームページを見てみると、オリンピックは延期になったが、ふるさと納税で集まった1400万円の寄付金で今後も支援を続けていくとのことだった。これを知り、私は、日本だけでなく、世界中の人を支援するために使われているのであれば、ふるさと納税は拡大していくべきではないかなと思った。また、私の家では毎年夏になるとふるさと納税で山梨県などに寄付をしており、返礼品としてぶどうや桃などが送られてきて、新鮮でとても美味しい。寄付をして、その上で特産品をいただけるのは、消費者にとっても、その地域の人々にとっても素晴らしい取り組みだと思う。(D組 Y.S.)
- ふるさと納税をすることで、地域の特産物などの魅力を色んな人に知ってもらうことができ、地方で働くことに興味を持つ若者が増える可能性があるからです。それによって地方の少子高齢化を少しでも解消できると思います。また、日本ではあまり寄付活動をするのが少ないのでいい経験になると思ったからです。確かに、川崎市や世田谷区のように税金の収入が減少しているという問題点がありますが、それは回数や金額を制限するなどの工夫ができると思います。(F組 A.O.)

〔反対派〕

- ふるさと納税の本来の目的は、税に対する意識を上げること、地域の宣伝・活性化なので返礼品競争の加熱で本来の目的が失われるなら拡大しなくていいと思いました。今のままでも充分税に対する意識は上がっていると思うし、地域の宣伝もふるさと納税の他にもねっとで街のPR映像などをあげれば効果はあると思うからです。(A組 M.O.)
- 人口が多い地域ほど、何をするにもお金は多くかかる。ふるさと納税によって都会に入るとお金が減ると、都会の地域は川崎市のように困り、住民のためになる活動を行うことができなくなる。また、ふるさと納税によって人々が寄付先の地域に関心を持つことができるというっているが、実際のところ、ほとんどの人々は返礼品が一番良さそうところへ寄付しているだけであり、その地域を応援したいという気持ちはあまりないと思われる。だから、ふるさと納税の拡大はあまり良いとはいえない。(F組 M.K.)

- ・返礼品についてのニュースをよく見ますが、魅力的な特産物がある地域はいいけれど必ずしもそのような地域ばかりではないと思います。このままの制度でふるさと納税を続けると返礼品が良い地域にだけ税金が集まり、良くない地域には集まらずさらに都市部の財政も少しずつ崩れていきかねません。だったらそのような税金は国が一括に管理して、各地方ごとの財政状況を考慮してさらにそれを納税者である国民に公開したうえで均等に振り分けたほうがいいのではないかと思います。(A組 I.N.)

✿布マスク製作（家庭科の授業より）

家庭科ではリモート授業の最初の2回は布マスクの製作を行いました。中1、中2の授業では型紙を使用しての被服実習は行っていませんでしたので（最近では小学校でも布に裁断線がプリントされているキットを使うことが多いようです）布の裁断から苦労した様子がみられました。また、立体マスクでしたので、「曲線を縫い合わせる」のも大変だったようです。

それでも、材料には家庭にあるものを利用する（ハンカチや幼いころの服、中1でつくったお花袋のあまり布など）、ワイヤーを入れたり、マスクゴムの入手が困難だったのでストッキングを利用して作る、など様々な工夫をして素敵なマスクが出来上がりました。

以下に生徒の感想をご紹介します。



- ・布の切れ目や糸の結び目が見えないように、中に折り込みながら縫うことを意識した。また、ゴムを縫うときは縫える幅が小さくとても難しかったが、何度もやり直しながら返し縫いをするなどし、とれないように工夫した。コロナウィルスの流行により全国規模で外出自粛が要請され、マスク不足も深刻化している。しかしこのように社会が不穏な空気に包まれる中で、マスクを手作りしたり「3密」を避けるなどといった、ウィルス流行への打開策を通じて、人々は共に終息を目指し協力するべきだと思う。今回マスクを初めて手作りし、普段はほとんど裁縫をしないため、とても貴重な経験となった。それと同時に、自分がマスクを手作りしたことでマスク不足が少しでも解消し、この社会情勢に貢献できたのかもしれないと思った。世界中の人々が協力することでウィルスの流行が終息し、人々が活動できる日が一日でも早く来てほしいと思う。(A組 S.O.)

- ・今まで、家で裁縫をするときなどは家族に何かしらを手伝ってもらっていたのだが、今回は全てを自分一人取り組むことができた。特に、今までアイロンなどは「危ないから」と親がいつも一緒にやってくれていた。だが、今回は私が勝手にアイロンを取り出していても親からは何も言われず、そこが少し寂しかったが、誇らしくもあった。そして完成したときには、「一人でもこんなに実用的なものが作れるのか！」と、とても驚いた。作成する前は、

正直に言って「どうしてマスクなんか作らなきゃならないの・・・？」と思っていたのだが、実際に作ってみると学びや感動が多くて、楽しかった。これからも、裁縫でも料理でも何かを作る機会があったら積極的に取り組みたいと思う。（B組 M.M）

・今回、人生の中で初めてマスクを作りました。いつもはつけることなどめったに無く、つけたとしてもお店に売っているマスクしかつけたことがありませんでした。そのため初めてのマスクづくりで、普段はお金で買うようなものでも家の中にある材料だけで短時間で簡単に作れてしまうということにおどろきました。私は家で余っていたタオルを使い、他の材料も家にあったもので作れました。またミシンを使って、自分で縫う時間を省いたので1時間もかからず、手順も少なかったので1人で簡単に作ることができました。また、今、感染防止の対策として自宅自粛を余儀なくされているからこそ、普段は当たり前のように買っていたマスクというものも家の中にあるものだけで作れるという新しい発見も得られました。また、家の中にたくさんあるハンカチやタオルなどがマスクの材料としてつかえるため、それがリサイクルもつながるのではないかと思います。そして、こういう機会があったからこそ、他にもリサイクルできるものがあるのではないかと考える機会を得ることもできました。（B組 Y.S）

・今回マスクを作る時に、私にとっては1番難しかったところは意外にも型紙をとるところでした。布が柔らかいため、歪んで線が取りにくい、同じものをとったはずなのにサイズが何故か違って測り直して切る、どこでとるのかを動画でちょこちょこ見直しながらすと時間がかかるなど、見事なボンコツぶりが発揮されました…。しかし、その他は順調で、意外とできるんだなぁ...と思いました。余裕はそこまでなかったので、アレンジなどは出来ませんでしたが、できるだけフィットするように形を見ながら慎重にアイロンをかけました(工夫とは言えないかもしれませんが)…。今回はそれらしい工夫が出来なかったのですが、幸い布とゴムは沢山あるので、次回はサイズを変えてみたり、ワイヤーを入れてみたり、のどぬえるマスクのように湿る布が入れられるポケットなどをアレンジで作ってみたいです。

(C組 M.O)

<写真(生徒の作品)>





この課題がでる前に、家庭でたくさんつくっていた作品をみせてくれる生徒もいました。

✿職業インタビュー

ゴールデンウィーク中の課題として、生徒たちに家族や親戚などに職業インタビューをしてもらいました。その後、各自が作成したスライドをもとに、meet 機能を利用しながら各クラスで発表をしました。発表は緊張したようですが、お互いの内容に興味を持ちながら楽しく学ぶことができていました。「将来何になりたいかわからない」などの不安を持っていた生徒たちも、「これだけ多くの職種があれば何かしら見つけられそう」と少し安心した様子でした。ご協力いただきましたご家族やご親戚の皆様、本当にありがとうございました。

以下に生徒たちの感想をご紹介します。



クラス全員のインタビューを聞きましたが同じ業種はいても誰一人として仕事内容が被っていなかったことに驚きました。様々な役割・責任をもった仕事をする人が社会にはいること、同じ職業などであっても沢山の異なる業務内容をしている人がいることが実感できました。私自身普段あまり聞けない仕事の話を家族に聞けてとてもいい経験になったと思います。(D組 Y.I.)

どんな仕事でもお客様や相手が喜んだり成功したりするとやりがいを感じるんだなと思いました。また、当たり前のことですが仕事は何かしらの役に立っていて、役に立っていない仕事一つもないと思いました。でもその分役に立つためにさまざまな大変なことをしていて、働いている人に感謝しなければいけないと思いました。私も人の役に立つような仕事につきたいです。(C組 A.H.)

色々な職業のことを知れて、それぞれ生活パターンや仕事の内容が全然違って面白かった。でも、どんな職業でも「誰かのために」という気持ちは変わらないんだと知った。大人になったらそんな立派なことを思いながら仕事ができるのだろうか、少し不安になっ

た。どんな職業の話聞いてもかっこいいなと感じたのは、そのためだと思った。

(C組 Y.Y.)

いろいろな種類の職業が出てきて、とてもおもしろかったです。また、仕事をしていてよかった事ややりがいを感じる時の内容に感動したものが沢山ありました。どの仕事にも責任感が必要で、必要な技能なども沢山あったので、少しずつでも沢山のことを吸収していく事が大切なのだなと思いました。また、今の自分には足りていないなと感じる姿勢があったので心がけながら行動していきたいなと思いました。

(D組 M.E.)

色々な場所で色々な人が仕事をしていることでやっとこの世の中が成り立っているのだなと思いました。普段当たり前に感じていることも、その裏では一生懸命働いてくださっている方がたくさんいることを改めて実感しました。普段は業種でまとめて捉えがちですが、その中でも色々な役割、立場、職場の人がいることを実感させられ、将来の夢を考えるとそれも踏まえることができたらいいと思いました。普段生活している上で勝手な偏見を持っていた職業もあり、実際にどのような仕事をしているのかがわかったのでとても良い機会でした。また、英語が必要な職業が多く感じたので、苦手ではありますがもっと英語を勉強していかなければならないなと思いました。

(D組 R.O.)

私は未だに何かにつけて「面倒くさい」と思いがちで、「労働」という言葉にマイナスなイメージしかないが、発表を聞いて、全員がその仕事で全力で取り組んでいて、たまには面倒くさいと思うようなことがあったとしても、一生懸命に働いていて、大人ってかっこいいなと思った。(E組 Y.K.)

今はまだ自分でも何を好きなのか、何をやりたいのかなど自分自身について知らないことが沢山あり、具体的な職業や就きたい職業の方向性すら定まっていない。そして、自分が職業を何を基準に選ぶのかもわからない。しかし、今回の発表を聞いて「好き」なジャンルの仕事をするのか、大学などで学んだことを活かせる職に就くのか、それとも会社で選ぶのか、など選び方はいくらかでも有ることが分かった。ついた職業を一生続けていきたいかどうかによっても選択は変わってくるのだと思う。この先自分が何を選択しても大丈夫なように、今はたくさんのかを学ぶことが大切だと感じた。(E組 M.F.)

母や叔母などの女性の方が多種多様な職業に就いているなと感じた。テレビで自分の好きなことではなく自分の得意なことをした方がいいと言っていたが、インタビューを聞く限り興味がある仕事に就くのが結局一番いいのではないかと思った。(B組 T.I.)

❀ 6月の登校日の様子



2月末の突然の休校以来、約3か月ぶりの登校となりました。正門でサーモグラフィーによる検温、中高校舎入り口で健康観察記録表の確認を経て、手を洗ってから各クラスの集合場所（大講堂、大体育館へ2クラスずつ、小講堂、カフェテリアに1クラスずつ）へ入りました。

校長先生が各部屋を回ってお話をしてくださり、その後担任よりクラス開きの挨拶、これからの学校生活についての話があり、配布物、回収物の確認、生徒の自己紹介などを行いました。

今までの登校時とまったく異なる手順に戸惑ったり、友人と久しぶりに顔を合わせ興奮する気持ちもあったと思いますが、状況を踏まえてぐっと我慢をして静か話を聞き、落ち着いて過ごすことができ、成長を感じる日となりました。

<正門でサーモグラフィーによる検温>



<校舎入り口で健康観察記録表の確認>



＜集合場所に行く前に、手洗い＞



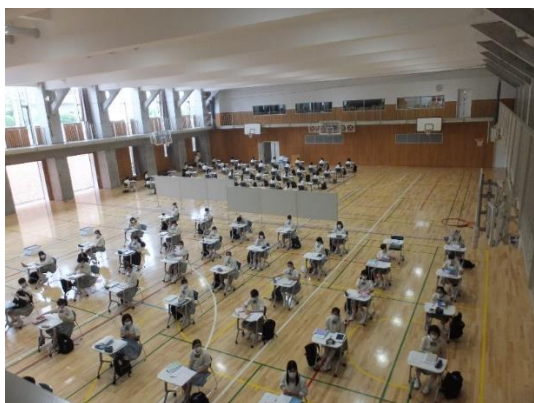
＜カフェテリアでの様子＞



＜大講堂での様子＞



＜大体育館での様子＞



＜小講堂での様子＞

